

3 資料

小学校や中学校、高等学校における「情報社会に参画する態度」に関する指導内容及び学習活動例を示しています。どのような場面で情報モラルの指導ができるか、具体的に示しています。また、「1 配付資料で説明する情報安全ワンポイント指導事例」との関連も示しています。各教科との連携を図った指導をする際にも参考にしてください。

「2 話し合い活動を取り入れた情報モラルの学習プラン」の考え方を「話し合い活動を通じた情報モラル指導の考え方」として示しました。最後に、インターネット関連法規の解説を記載しました。

1 情報モラル指導と教科等での指導の関連

文部科学省では、「初等中等教育における教育の情報化に関する検討会」を設置し、情報化の進展等に対応した教育の情報化の今後の在り方について検討を進め報告書「情報教育に係る学習活動の具体的展開について - ICT 時代の子どもたちのために、すべての教科で情報教育を - 」(平成 18 年 8 月 28 日)をまとめました。初等中等教育における情報教育の考え方を整理し、情報教育の内容の体系化を図った上で、小、中、高等学校の各学校段階において子どもたちが身に付けるべき「情報活用能力」に関する指導内容や学習活動例を一覧表にまとめています。

ここでは、その報告書の中から情報モラルに関する部分として「情報社会に参画する態度」の小学校、中学校、高等学校の一部を抜粋しました。また、一覧表に本資料の「1 情報安全指導事例」で紹介した、事例 1～12 の各事例との関連を示しました。

小学校「情報社会に参画する態度」の例

分類	情報教育に関係する指導内容及び学習活動例		
	小学校低学年 (1, 2 年)	小学校中学年 (3, 4 年)	小学校高学年 (5, 6 年)
社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響		コンピュータやインターネットは便利である反面、その使用が長くなり過ぎると、生活のリズムを崩すなどの影響が起こることを知り、健康に注意しながら利用する(総合・体育)。	情報化の進展に伴い、多様な情報が提供され、それによって国民生活に様々な影響をもたらしており、生活の向上や産業の発展に大きな役割を果たしていることを考える(社会)。 事例 8 事例 9
情報モラルの必要性や情報に対する責任		ID やパスワードの大切さを知る(総合)。 事例 6 事例 7	ネットワークの先には人がいることを意識した、相手の立場に立った適切なコミュニケーションの大切さを知る(総合・国語・道徳)。 事例 4 事例 10
		人の写真を撮る時や、他人の作ったものを使う時には、許可が必要なことを知る(総合・道徳)。 事例 1 事例 2	悪意がある情報や、不適切・不正なサイトへの正しい対処法を知る(総合・道徳)。 事例 11 事例 12
		自分や友だちの個人情報を知らない人にむやみに教えてはならないことを知る(総合・道徳)。 事例 3	著作物や知的財産権を理解し、これらの権利を守ることがわかる(総合・国語・社会・図工)。 事例 1
		インターネット上には、役立つ情報のほかに正しくない情報や危険な情報もあることを知る(総合)。	インターネットの影響力の強さを知り、不確かな情報を発信しないようにする(総合)。 事例 4 事例 5

		文字だけのコミュニケーションは行き違いが起きやすいことを知る(総合・国語・道徳)。 事例4 事例10	相手のことを考えて情報を収 集したり発信した情報に対して責任をもったりすることの大切さに気付く(社会)。 事例4
望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度		メディアを経由した情報を受信・発信する際には、情報のすべてを表現することはできないことを知る(総合・国語・社会)。 事例4	メディアからの情報には発信者の意図と背景があることを理解し、情報を受ける側が情報の判断をする必要があることを知る(総合・社会)。 事例4

中学校「情報社会に参画する態度」の例

分類	情報教育に係る指導内容		学習活動例
社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響	・健康な生活と疾病の予防 必要に応じて、コンピュータなど情報機器の使用による疲労の現れ方や休憩の取り方など健康とのかかわりについて取り上げることに配慮する。	保健体育(保健分野)	コンピュータの使用時間、目の疲れ、肩こりの有無などについてクラス内でアンケート調査を行い、これらの関連性を調べる。
情報モラルの必要性や情報に対する責任	・表現及び鑑賞の指導上の配慮事項 表現の指導に当たっては、美術に関連して著作権等の知的所有権や肖像権などの権利を尊重し、侵害しないことについても併せて指導が必要。 事例1 事例2	美術(A表現)	絵画作品と著作権について調べる。
	・情報化が社会や生活に及ぼす影響を知り、情報モラルの必要性について考えること。 情報社会の特質や情報化の進展がもたらす社会や人間に対する影響について、個人情報や著作権の保護、コンピュータ犯罪、健康問題なども含め、光と影の存在について考えさせる。 事例1 事例2 事例3 事例7 事例8 事例9 事例10 事例11 事例12	技術・家庭(技術分野/B情報とコンピュータ)	身の回りの事例から、社会が情報化したことで便利になったことと、不便になったことについて調べる。
	・ソフトウェアを選択して、表現や発信ができること(「情報の発信」との関連で再掲)。 選択 インターネットを利用する場合には、不特定多数の人が発信した情報が得られること、逆に自分の発信した情報が不特定多数の人に見られることを知らせる。 事例3 事例4 事例5	技術・家庭(技術分野/B情報とコンピュータ)	校内LANの掲示板でニックネームを使ったコミュニケーション活動(チャット)を行い、ネットワークの匿名性の危険について話し合う。

<p>望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度</p>	<p>・販売方法の特徴や消費者保護について知り、生活に必要な物資・サービスの適切な選択、購入及び活用ができること。 情報化の進展に伴う消費生活の変化にも対応し、生徒の身近な事例を取り上げて具体的に考えさせたり、消費生活センターなどを見学したりして、興味・関心をもたせるように工夫する。 事例 8 事例 9 事例 12</p>	<p>技術・家庭 (家庭分野 / B 家族と家庭生活)</p>	<p>消費生活センターの見学などを通して情報化の進展に伴う消費生活の変化について調べる。</p>
-------------------------------	---	--	--

高等学校「情報社会に参画する態度」の例

分類	情報教育に係る指導内容		学習活動例
<p>社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響</p>	<p>・情報化の進展と社会への影響(社会で利用されている情報システム) 社会で利用されている代表的な情報システムについて、それらの種類と特性、情報システムの信頼性を高める工夫などを理解させる。 事例 6 事例 7 事例 9</p>	<p>情報 C</p>	<p>フィッシング詐欺をはじめとしたインターネット上の犯罪について調べ、それらはどのようにすれば被害を最小に抑えられるか考える。</p>
<p>情報モラルの必要性や情報に対する責任</p>	<p>・現代と倫理(現代の諸課題と倫理) 情報社会の特質、及びその進展がもたらす人間や社会に対する影響について考えさせ、的確に、また主体的に情報を選択・発信することのできる能力やモラルを身に付けさせる。また、情報を活用して自己の生き方を豊かにすることや情報ネットワークによってつくられる人間関係の広がりなどの可能性がある一方、直接的な人間関係の希薄化、生活体験・自然体験の不足などがもたらす問題、人間の主体性の喪失の危険性、間接経験の拡大、知的所有権の保護など情報機器の利用にかかわるモラルの問題などにも目を向けさせ、情報社会の持つ光と影の両面から理解を深め、情報社会における自らの在り方生き方について考えさせる。 事例 2 事例 4</p>	<p>倫理</p>	<p>主として携帯電話のメールで連絡する友人と部活動などで行動を共にする友人とを比較し、ふだんのつきあい方によつてどのような違いがあるか考える。</p>
	<p>・鑑賞(作者の心情や意図と表現の工夫) 作品には作者の知的所有権(特許、意匠権、著作権など)があり、無断でアイデアやデザインを利用したり、真似をしたものを自分の作品として公に発表したりすることは、許されないことを理解し、作者の考えや作品をその人独自のものとして尊重する態度を培う。 事例 1 事例 2</p>	<p>美術</p>	<p>インターネットなどを利用して、美術作品の著作権侵害で問題になっている事例を調べ、それは著作権のどの部分が問われているかについて考える。</p>

情報モラルの 必要性や情報 に対する 責任	・消費生活と資源・環境（消費者の権利と責任） 消費生活の現状と課題、消費者問題と消費者の保護、消費者の責任及び生活情報の収集・選択と活用について理解させ、消費者として主体的に判断し責任をもって行動できるようにすること。 事例 7 事例 9	家庭総合	Web ページや電子メールから得られた情報の信頼性や信憑性をどのように判断するかについて話し合い、詐欺やトラブルに巻き込まれないようにするにはどのような対策が必要か考える。
	・消費生活と環境(家庭の経済と消費) 多種多様な情報について、発信源を確認したり、正確さを判断する能力を身に付け、適切な情報を取捨選択して目的に応じて活用できるようにすることが重要であることを認識させる。 事例 4 事例 9 事例 10	生活技術	内容の異なる 情報を発信している Web ページを比較して、どちらの情報に信憑性があるか考えてみる。
	・情報の収集・発信と情報機器の活用(情報の収集・発信における問題点) 情報通信ネットワークやデータベースなどを利用した情報の収集・発信の際に起こり得る具体的な問題及びそれを解決したり回避したりする方法の理解を通して、情報社会で必要とされる心構えについて考えさせる。 事例 3 事例 6	情報 A	大量の個人情報なぜ流出するかについて話し合い、個人情報流出による被害に遭わないためにはどのような対策が必要か考える。
	・情報の収集・発信と個人の責任(情報の公開・保護と個人の責任) 多くの情報が公開され流通している実態と情報の保護の必要性及び情報の収集・発信に伴って発生する問題と個人の責任について理解させる。 事例 3 事例 6	情報 C	Web ページや電子メールを利用する際に個人情報の保護に気を付けているかをチェックし、個人情報の漏洩でどのような被害が予想されるかを考える。
	・情報化の進展と社会への影響(情報化が社会に及ぼす影響) 情報化が社会に及ぼす影響を様々な面から認識させ、望ましい情報社会の在り方を考えさせる。 事例 8 事例 9 事例 11 事例 12	情報 C	社会の情報化の進展に伴いどのようなネットワーク犯罪が登場しているか調べ、それらの被害者にならないためにはどのような知識と心構えが必要か考える。
	・情報社会を支える情報技術(情報技術の進展が社会に及ぼす影響) 情報技術の進展が社会に及ぼす影響を認識させ、情報技術を社会の発展に役立てようとする心構えについて考えさせる。 事例 9 事例 10 事例 11 事例 12	情報 B	情報社会ではあらゆる人間が情報を容易に発信できることについて考え、虚偽の情報や悪意のある情報に対処するにはどのような心構えが必要であるかについて話し合う。
望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度			

情報教育に係る学習活動の具体的展開について - ICT 時代の子どもたちのために、すべての教科で情報教育を - 平成 18 年 8 月 28 日 文部科学省より抜粋

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/18/08/06082512.htm